

平成 26 年度

発達障害の可能性のある児童生徒に対する早期支援・教職員の専門性向上事業
(発達障害理解推進拠点事業)

成果報告書 (概要版)

実施機関名 (仙台市教育委員会)

1. テーマ

「すべての教職員が障害のある幼児児童生徒一人一人に応じた適切な指導・支援に取り組むために」

発達障害に関する理解, 児童生徒の実態把握の仕方, 校内委員会の持ち方, 個別の教育支援計画の作成, 授業改善や学級経営の工夫等, 発達障害に関する研修や実践により教職員の専門性の向上を図る。

2. 問題意識・提案背景

通常の学級において, 発達障害のある児童生徒への対応が求められており, 児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた適切な教育を行うために, すべての学校種が校内支援体制の充実を図るとともに, 教員の専門性の向上が課題となっている。

仙台市では, 平成 16 年度より「特別支援教育コーディネーター養成研修」を実施し, 受講修了した教員はおおよそ 1, 490 名に上る。市立学校園の多くが特別支援教育コーディネーターを複数配置し, 課題解決に向け各学校で取り組んでいる。

また, 本市では平成 18 年度より「特別支援教育実践研究協力校 (毎年 20 校程度)」を認定し, 全教職員が特別支援教育 (発達障害の理解啓発を中心に) の実践研究を行ってきた。

これまでの取組から, 各学校園では発達障害の理解啓発が図られ, 校内支援体制が整備されてきた。今後は特別支援教育のより一層の充実を図るため, 「授業改善」「職員の専門性向上」「より効果的に機能する校内支援体制」を 3 本の柱として実践研究を行うこととした。

3. 拠点校について

○ 拠点校一覧

設置者	学校名（ふりがなを付すこと）
仙台市	仙台市立六郷小学校（ろくごうしょうがっこう）
仙台市	仙台市立若林小学校（わかばやししょうがっこう）
仙台市	仙台市立四郎丸小学校（しろうまるしょうがっこう）
仙台市	仙台市立遠見塚小学校（とおみづかしょうがっこう）
仙台市	仙台市立福室小学校（ふくむろしょうがっこう）
仙台市	仙台市立北仙台小学校（きたせんだいしょうがっこう）
仙台市	仙台市立袋原小学校（ふくろばらしょうがっこう）
仙台市	仙台市立八木山南小学校（やぎやまみなみしょうがっこう）
仙台市	仙台市立芦口小学校（あしのくちしょうがっこう）
仙台市	仙台市立蒲町小学校（かばのまちしょうがっこう）
仙台市	仙台市立鶴巻小学校（つるまきしょうがっこう）
仙台市	仙台市立郡山小学校（こおりやましょうがっこう）
仙台市	仙台市立将監小学校（しょうげんしょうがっこう）
仙台市	仙台市立南中山小学校（みなみなかやましょうがっこう）
仙台市	仙台市立泉松陵小学校（いずみしょうりょうしょうがっこう）
仙台市	仙台市立高砂中学校（たかさごちゅうがっこう）
仙台市	仙台市立蒲町中学校（かばのまちちゅうがっこう）
仙台市	仙台市立折立中学校（おりたてちゅうがっこう）
仙台市	仙台市立将監東中学校（しょうげんひがしちゅうがっこう）
仙台市	仙台市立松陵中学校（しょうりょうちゅうがっこう）
仙台市	仙台市立仙台大志高等学校（せんだいたしこうとうがっこう）

○ 理解推進地域内の学校一覧

設置者	学校名
仙台市	仙台市立幼稚園，小学校，中学校，高等学校，中等教育学校，特別支援学校 全193校園

4. 拠点校における取組概要

21校の各拠点校がテーマを設定し、全教職員が発達障害理解推進に係る研究に取り組んだ。拠点校が行う研修会は近隣の学校への参加を呼びかけ、理解推進を図った。21校の主な取組は以下のとおりである。

① 仙台市立六郷小学校

ユニバーサルデザインの視点を加味した授業づくりについて、各学年部でサブテーマを設定して、説明文教材・物語文教材の授業実践を行った。

② 仙台市立若林小学校

通常の学級に在籍する発達障害児への支援や指導について工夫し、ソーシャルスキル、ユニバーサルデザイン、p4c（子どもの哲学 philosophy for children）を取り入れた実践に取り組んだ。

③ 仙台市立四郎丸小学校

「ユニバーサルデザインの授業づくり」、「校内支援体制づくり」、「全ての児童にやさしい環境づくり」を柱として実践に取り組み、ユニバーサルデザインの考え方を取り入れた授業づくりや、校内支援体制を整備し、児童一人一人を大切にする指導・支援の工夫について、全職員で共通理解を図った。

④ 仙台市立遠見塚小学校

Q-U調査を活用して学級満足度の特徴をつかみ、それを基にソーシャルスキルトレーニングとユニバーサルデザインを取り入れた授業づくりに取り組んだ。

⑤ 仙台市立福室小学校

特別支援学級の児童に対する将来の生活の自立に向けた授業と通常の学級の児童に対する共生を意図した特別支援学級担任による出前授業を行い校内の特別支援教育の推進を図った。

⑥ 仙台市立北仙台小学校

研修会を通して、特別支援教育に関する理解を深めるとともに、校内支援体制を整えた。また、配慮を要する児童に対する効果的な指導方法の在り方を国語科の校内研究を通して探った。

⑦ 仙台市立袋原小学校

特別支援学級の児童と交流学級の児童双方の実態について全教職員で共通理解を図り、共に学ぶ「交流及び共同学習」ができる体制づくりと、授業づくりの実践を行った。

⑧ 仙台市立八木山南小学校

八木南タイム、スーパー少人数など校内体制を工夫することで、支援を要する児童に対して有効な指導方法を探った。

⑨ 仙台市立芦口小学校

特別な配慮を要する児童の理解・支援を目指す校内体制づくりのため、ユニバーサルデザインの導入と「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の作成、障害理解のための研修の三つの柱で実践を行った。

- ⑩ 仙台市立蒲町小学校
「ユニバーサルデザインを取り入れた指導」を学習指導の基本とし、「学級づくり」「環境づくり」「授業づくり」の三つを柱とした実践を行った。
- ⑪ 仙台市立鶴巻小学校
児童一人一人のよさを生かす支援の方策として「児童理解を深めること」「交流及び共同学習の推進」「関係機関との連携の推進」の3点から実践を行った。
- ⑫ 仙台市立郡山小学校
ユニバーサルデザインを取り入れた分かりやすい授業づくりの実践と温かい学級づくりについての研修を行い全校で取り組んだ。
- ⑬ 仙台市立将監小学校
インクルーシブ教育システムの理念を踏まえ、特別支援教育推進に向けた教育環境を見直し課題を整理した。また、発達障害の児童を対象にしたケース会議において、多面的・総合的に実態を把握することのできるICF関連図の活用を試み、実態や必要な支援、現在受けている支援の状況などを個別の教育支援計画としてまとめる実践を行った。
- ⑭ 仙台市立南中山小学校
特別支援教育の視点をもってユニバーサルデザインを取り入れた授業づくりを実践し、児童一人一人を大切にする指導・支援の在り方を探る取組を行った。
- ⑮ 仙台市立泉松陵小学校
「研修」「把握」「授業」「移行」の4本を柱として授業づくりを行った。泉松陵小学校と松陵中学校の教員がお互いの授業を参観したり、2回の合同研修会を開催したりするなど、小中9年間を見通した教育の在り方について研究を行った。
- ⑯ 仙台市立高砂中学校
ユニバーサルデザインの視点を生かした環境づくりと授業づくりに取り組んだ。学年OJT組織を生かして実践を行った。
- ⑰ 仙台市立蒲町中学校
中学校における、配慮を要する生徒に対する校内支援体制の構築（主に個別の取り出し授業について）と全教科でユニバーサルデザインを取り入れた授業づくりに取り組んだ。
- ⑱ 仙台市立折立中学校
心の教育や学年縦割り活動等の認め合い、高め合う集団づくりの取り組みを人間関係づくりの基盤とし、配慮を要する生徒が生き生きと学ぶための校内支援体制整備と教科学習における授業づくりに全職員で取り組んだ。

⑱ 仙台市立将監東中学校

通常の学級に在籍する配慮を要する生徒に対する支援として、ユニバーサルデザインを取り入れた授業や学習環境を工夫した。授業づくりにおいて、各教師の工夫から教科としての工夫、そして学校として共通で取り組める工夫を東中スタンダードとしてまとめた。

㉑ 仙台市立松陵中学校

「研修」「把握」「授業」「移行」という4本の柱を立て、泉松陵小学校とともに特別支援教育の視点に立った授業づくりの実践を行った。

㉒ 仙台市立仙台大志高等学校

特別な配慮を要する生徒の自立と社会参加の推進に向け、就労支援体制の構築を行った。特別支援教育研修会を実施し、市内の教職員への発信を積極的に行った。

5. 主な成果

○ 特別支援教育実践研究協力校

特別支援教育実践研究協力校（拠点校）21校では、特別支援教育についての理解推進、校内の特別支援教育体制の充実、授業づくりや指導方法の工夫などのテーマに取り組み、各校での特別支援教育に関する教員の専門性の向上や、特別支援教育の充実が図られた。校内での実践研究のほか、外部講師を招聘しての研修会では、近隣の学校へ参加を働きかけた。

○ 特別支援教育実践研究協力校報告会

報告会とパネルディスカッションを開催した。市立学校から約260名の参加者があり、特別支援教育実践研究協力校（拠点校）の研究成果を全市立学校に周知することができた。

また、パネルディスカッションでは、本市のこれからの発達障害児支援をテーマとして、これまでの本市の取組を振り返り、先進地（日野市）の報告を受け、意見交換が行われた。

○ 特別支援教育コーディネーター連絡協議会

全ての市立学校から特別支援教育コーディネーターが参加し、情報交換や協議を行ったことにより、特別支援教育コーディネーターとしての役割を確認したり、特別支援教育推進に関する課題意識を明確化したりし、特別支援教育コーディネーターとしての専門性を向上させることができた。

○ 特別支援教育コーディネーター地区別連絡協議会

38地区ごとに、特別支援教育に関する研修会、授業研究会、情報交換会などが自主的に活発に行われ、各地区の実態に応じた特別支援教育の推進に向け、教員の専門性を向上させることができた。

6. 今後の課題と対応

- 特別支援教育実践研究協力校
特別支援教育実践研究協力校（拠点校）を毎年20校程度認定しているが、複数回認定を受ける学校がある一方で、未実施の学校もある。27年度は初めて認定を受ける学校を増やしていく。
- 発達障害専門性向上検討会議
発達障害専門性向上検討会議は開催したものの、26年度の本事業の取組に対する評価が主な内容であった。27年度は、計画の段階から専門家等の意見を求め、より充実した内容となるよう実施したい。
- 特別支援教育フォーラムの開催
26年度は特別支援教育実践研究協力校報告会でパネルディスカッションを開催した。多くの参加者があり、自校の取組に生かしたいとの感想が多く寄せられた。しかし、参加者の多くが各学校で特別支援教育の担当をしている教員が多数を占めた。27年度は管理職や通常の学級の担任の参加を促したい。

7. 問い合わせ先

組織名：仙台市教育委員会

- (1) 担当部署 仙台市教育局学校教育部特別支援教育課
- (2) 所在地 仙台市青葉区上杉1丁目5-12
- (3) 電話番号 022-214-8879
- (4) FAX番号 022-264-4437
- (5) メールアドレス tokubetusien@city.sendai.jp